

○目が開かれた盲人と盲人だったパリサイ人：四つのキーワード

1. _____(13-23)

▶「尋ねた」

「主な労働の種類は…種を蒔くこと、耕すこと、刈り取ること、束ねること、脱穀すること、風選すること、穀物をきれいにする、挽くこと、ふるいにかけること、こねること、焼くこと、羊毛を刈ること、羊毛を洗うこと、紡ぐこと、織ること、二つの輪を作ること、二つの糸を織ること、二つの糸を分けること、結ぶこと、解くこと、二針縫うこと、二針縫うために裂くこと、野獣を狩ること、それを屠ること、皮を剥ぐこと、塩漬けにすること、皮をなめすこと、皮を削ること、切り分けること、二文字書くこと、二文字書くために消すこと、建てること、取り壊すこと、火を消すこと、火をつけること、金槌で打つこと、一つの場所から別の場所へ物を運ぶこと。」

※ヨハネ3:20

「悪いことをする者は光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。」

2. _____(24-34)

▶「神に栄光を帰しなさい」

※ヨシュア記7:19

「そこで、ヨシュアはアカンに言った。「わが子よ。イスラエルの神、主に栄光を帰し、主に告白しなさい。あなたが何をしたのか私に告げなさい。私に隠してはいけない。」」

「破門には二つの種類があった。一つはケレムと呼ばれるもので、これは人を生涯にわたって会堂から追放する厳しい処分であった。この場合、その人は公的にのけ者扱いされ、人々の前で呪われ、神からも社会からも断ち切られることになる。もう一つは一時的な破門であり、これは一ヶ月、あるいは一定の期間にわたって科されるものであった。このような状況の恐ろしさは、ユダヤ人にとってそれが単に会堂から締め出されることにとどまらず、神からも締め出されることを意味すると受け取られていた点にある。」(ウィリアム・バークレイ)

※マルコ8:34-35

「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。」

3. _____(35-38)

▶「人の子」

※ダニエル7:13-14

「私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」

▶「拝した」

4. _____(39-41)

※ヨハネ3:17

「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」

「ヨハネ9:39は、ヨハネ3:16-17と矛盾しているわけではありません。主が来られた目的は救いでしたが、その来臨の結果として、信じようとしないう者に裁きをもたらされたのです。同じ太陽が、種から美しいものを芽生えさせる一方で、岩の下に隠れる害虫を露わにするようなものです。」(ウォーレン・ワーズビー)

※ヨハネ3:36

「御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる。」

「私たちの小ささがキリストを妨げるのではなく、むしろ私たちの大きさが妨げるのである。私たちの弱さがキリストを妨げるのではなく、むしろ私たちの強さが妨げるのである。私たちの闇そのものではなく、自分は光を持っていると思いついでいることこそが、主の力を妨げるのである。」(チャールズ・スポルジョン)